

第1章 医療施設及び医療従事者の状況

第1章 医療施設及び医療従事者の状況

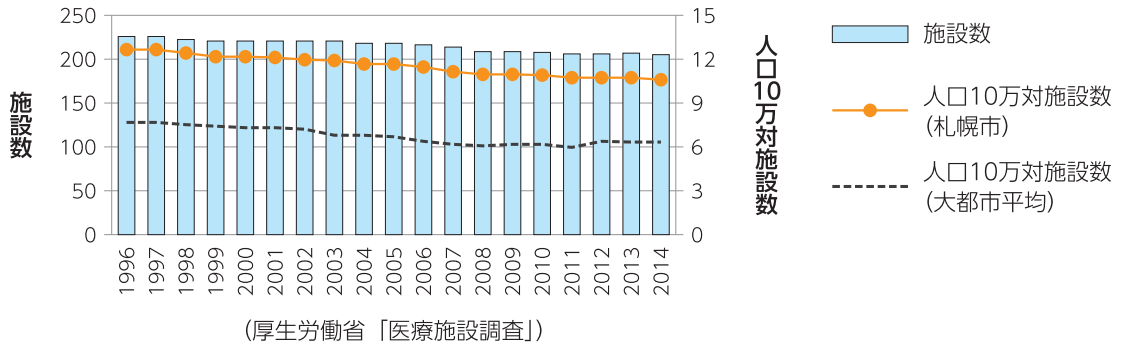
本章では、医療施設や病床の数、特殊診療設備、従事者などの状況を示す。

1 医療施設数

(1) 病院

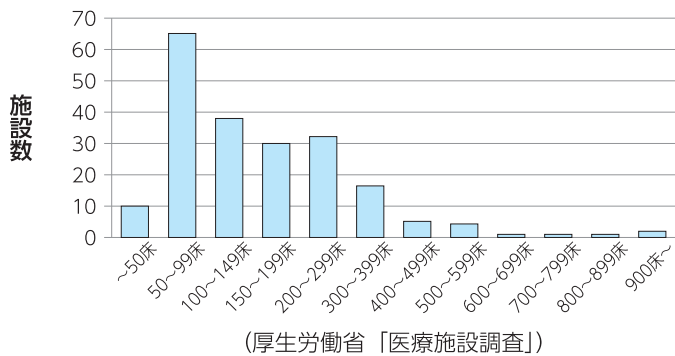
札幌市内の病院数は減少傾向にあり、2014年には205施設となった。人口10万人当たりの病院数は、2014年の大都市平均¹では6.3施設、札幌市では10.6施設となっている。

図 1-1 病院数の推移



また、2014年の札幌市における病床規模別の病院数は図1-2のとおりである。

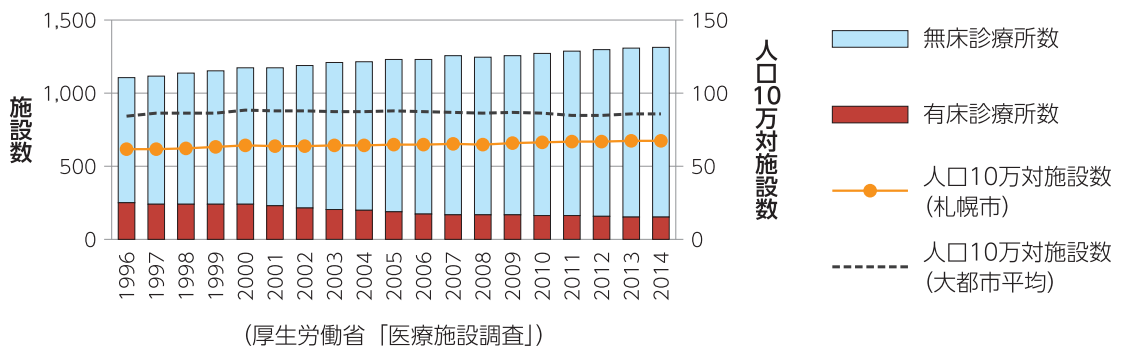
図 1-2 病床規模別の病院数 (2014年、札幌市)



(2) 一般診療所

札幌市内の一般診療所²数は徐々に増加し、2014年には1,312施設（有床診療所156施設、無床診療所1,156施設）となった。人口10万人当たりの診療所数は、2014年の大都市平均では85.7施設、札幌市では67.5施設となっている。

図 1-3 一般診療所数の推移

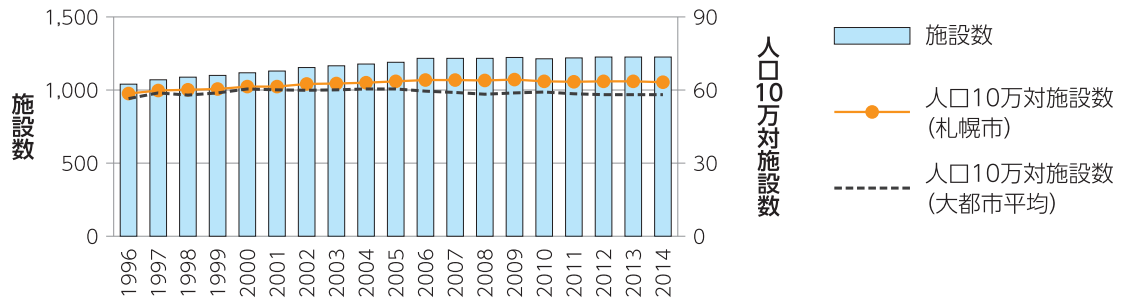


¹ 大都市平均の定義については巻末資料「2 政令指定都市の変遷」に記載
² 医師又は歯科医師が医業又は歯科医業を行う診療所（歯科医業のみを行う診療所を除く。）

(3) 歯科診療所

札幌市内の歯科診療所数は、徐々に増加した後ほぼ横ばいに推移し、2014年には1,230施設となった。人口10万人当たりの診療所数は、2014年の大都市平均では58.3施設、札幌市では63.3施設となっている。

図 1-4 歯科診療所数の推移



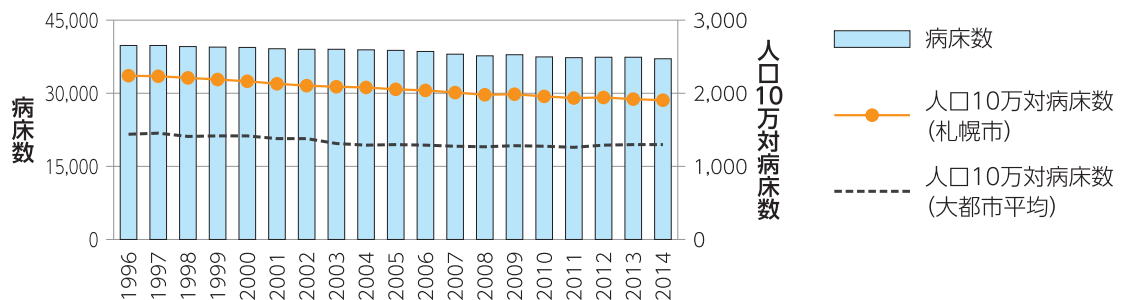
(厚生労働省「医療施設調査」)

2 病院の病床数

(1) 総病床数

札幌市内の病院の総病床数は減少傾向にあり、2014年には37,154床となった。人口10万人当たりの病床数は、2014年の大都市平均では1,287.8床、札幌市では1,912.2床となっている。

図 1-5 総病床数の推移

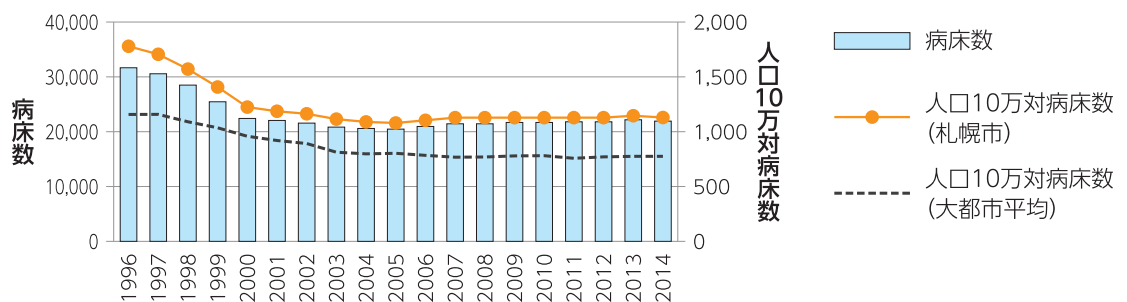


(厚生労働省「医療施設調査」)

(2) 一般病床

札幌市内の病院の一般病床³数は2003年以降ほぼ横ばいであり、2014年には21,961床となった。人口10万人当たりの病床数は、2014年の大都市平均では775.7床、札幌市では1,130.3床となっている。

図 1-6 一般病床数の推移



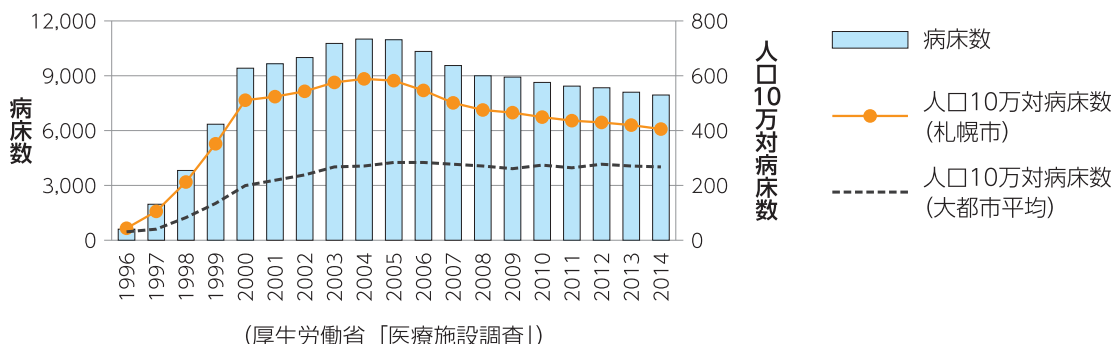
(厚生労働省「医療施設調査」)

³ 2000年までは「その他の病床」のうち「療養型病床群」を除いたもの、2001年及び2002年は「一般病床」及び「経過の旧その他の病床（経過的旧療養型病床群を除く。）」

(3) 療養病床

札幌市内の病院の療養病床⁴数は2004年をピークにその後減少しており、2014年には7,860床となった。人口10万人当たりの病床数は、2014年の大都市平均では265.6床、札幌市では404.5床となっている。

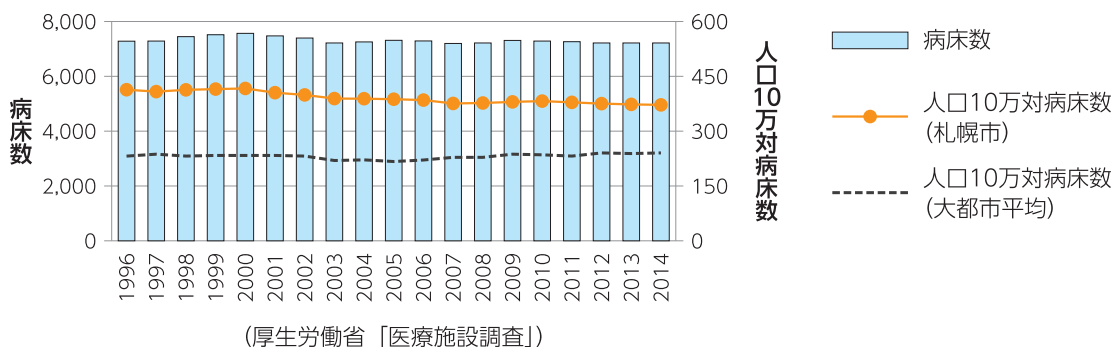
図 1-7 療養病床数の推移



(4) 精神病床

札幌市内の病院の精神病床数はほぼ横ばいで推移し、2014年には7,223床となった。人口10万人当たりの病床数は、2014年の大都市平均では240.6床、札幌市では371.7床となっている。

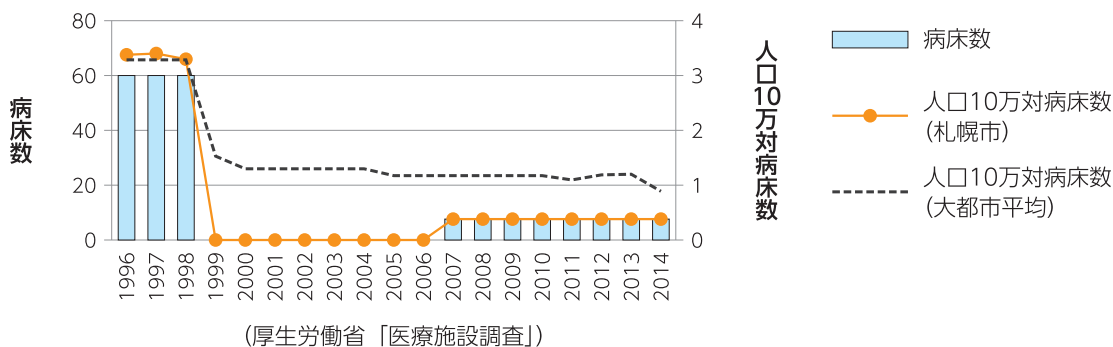
図 1-8 精神病床数の推移



(5) 感染症病床

札幌市内の病院の感染症病床⁵数は1999年から2006年までは0床であった⁶が、2007年に市立札幌病院で8床設置された。人口10万人当たりの病床数は、2014年の大都市平均では0.9床、札幌市では0.4床となっている。

図 1-9 感染症病床数の推移



4 2000年までは「療養型病床群」、2001年及び2002年は「療養病床」及び「経過的旧療養型病床群」

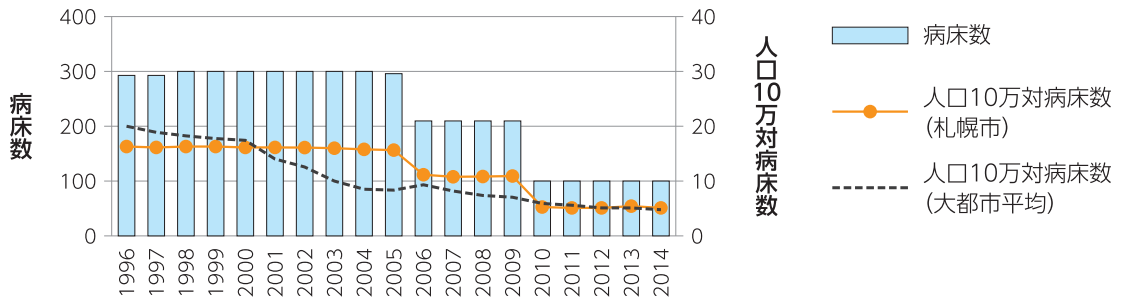
5 1999年3月までは「伝染病床」

6 札幌市では1999年3月に伝染病床が0床となり、2007年5月に感染症病床が設置された。医療施設調査は10月1日現在の状態を示すため、1999年は0床、2007年は8床となる。

(6) 結核病床

札幌市内の病院の結核病床数は段階的に減少し、2014年には102床となった。人口10万人当たりの病床数は、2014年の大都市平均では4.9床、札幌市では5.2床となっている。

図 1-10 結核病床数の推移



(厚生労働省「医療施設調査」)

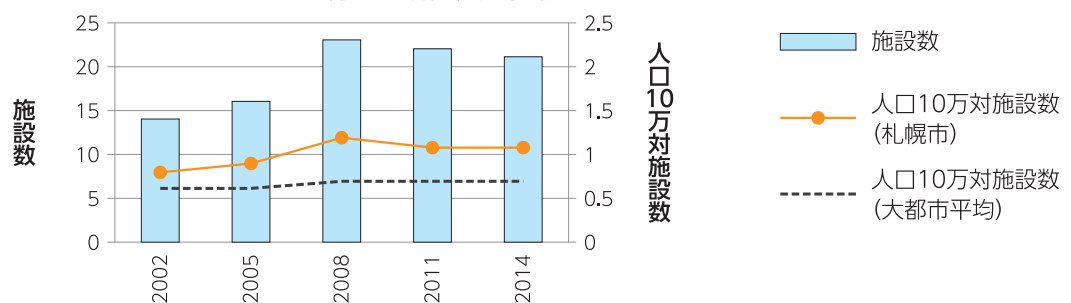
3 病院が有する特殊診療設備

本項では、医療施設調査（厚生労働省）のデータを基に、病院における特殊診療設備（施設基準又は要件を満たすもの）の設置状況を示す。

(1) ICU

札幌市内のICU（特定集中治療室）を持つ病院数は2008年をピークにやや減少し、2014年には21施設となった。人口10万人当たりの病院数は、2014年の大都市平均では0.7施設、札幌市では1.1施設となっている。

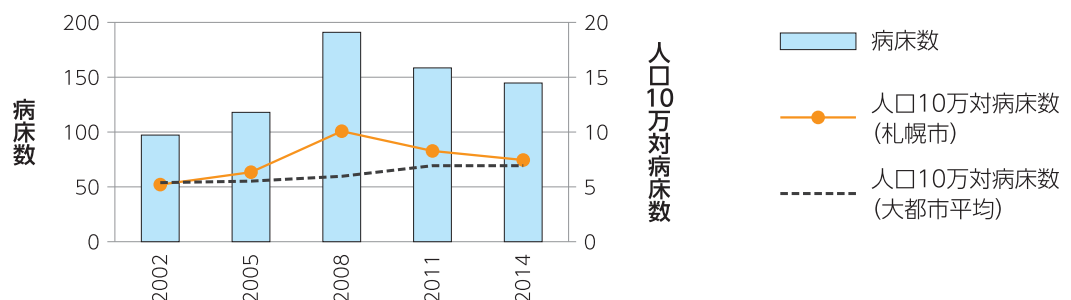
図 1-11 ICUを有する病院数の推移



(厚生労働省「医療施設調査」)

また、札幌市内の病院にあるICUの病床数も、2008年をピークにやや減少し、2014年には145床となった。人口10万人当たりの病床数は、2014年の大都市平均では7.1床、札幌市では7.5床となっている。

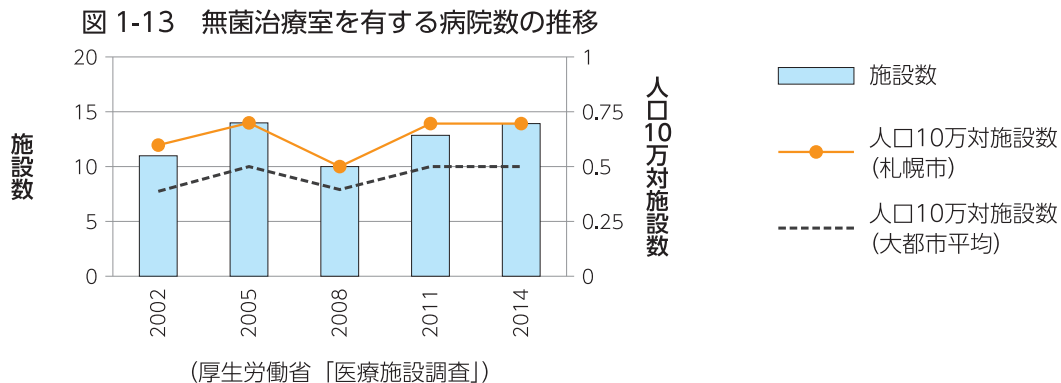
図 1-12 ICUの病床数の推移



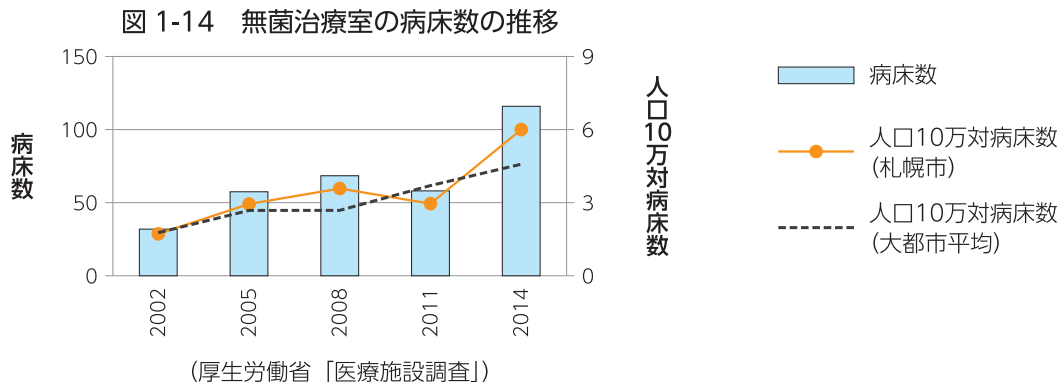
(厚生労働省「医療施設調査」)

(2) 無菌治療室

札幌市内の無菌治療室（手術室を除く。）を持つ病院数は年によって変動し、2014年には14施設となった。人口10万人当たりの病院数は、2014年の大都市平均では0.5施設、札幌市では0.7施設となっている。

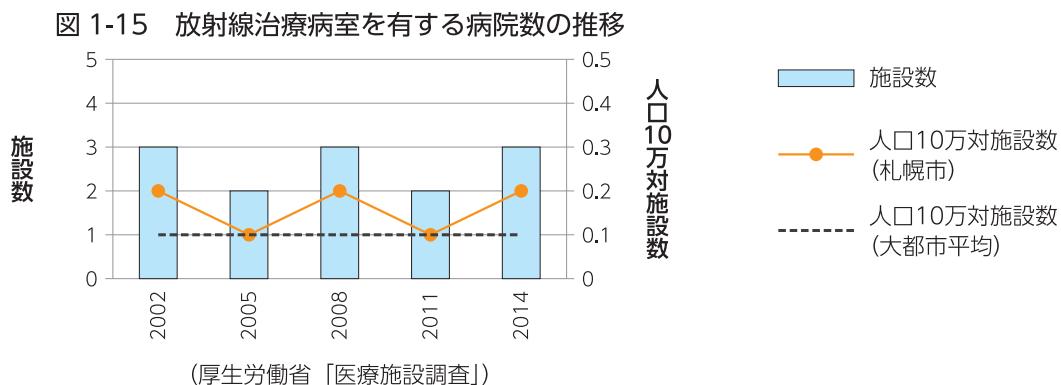


また、札幌市内の病院にある無菌治療室（手術室を除く。）の病床数は大きく増加し、2014年には116床となった。人口10万人当たりの病床数は、2014年の大都市平均では4.6床、札幌市では6.0床となっている。

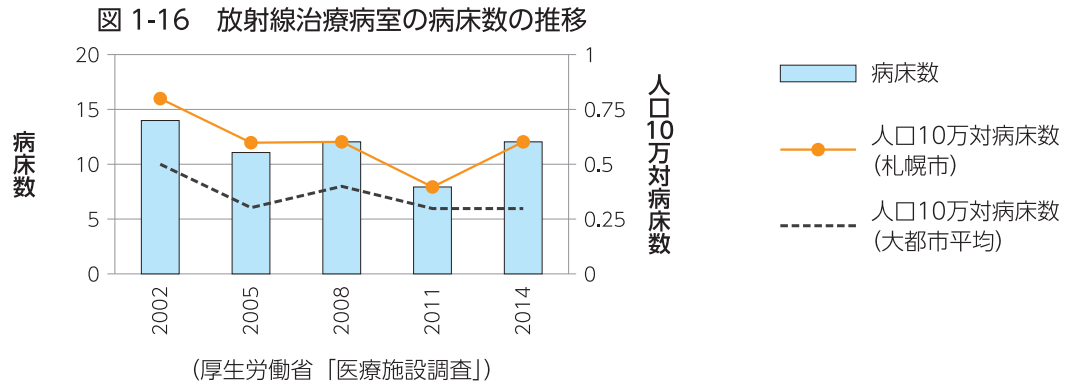


(3) 放射線治療病室

札幌市内の放射線治療病室を持つ病院数は年によって変動し、2014年には3施設となった。人口10万人当たりの病院数は、2014年の大都市平均では0.1施設、札幌市では0.2施設となっている。

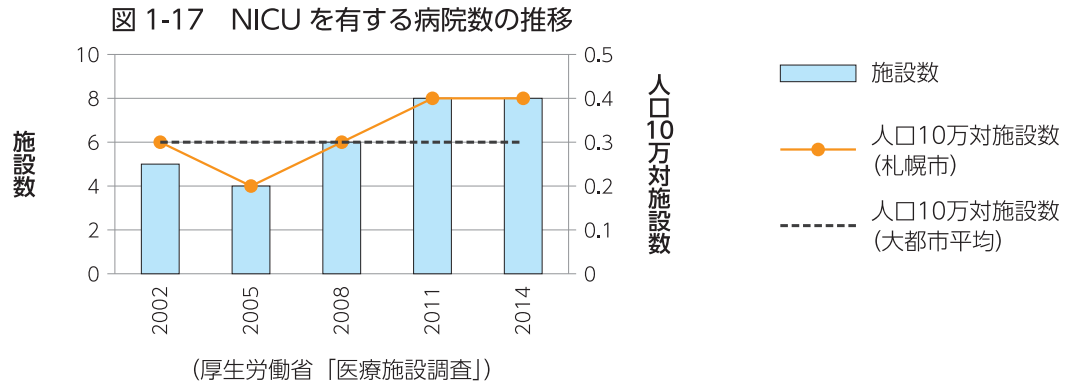


また、札幌市内の病院にある放射線治療病室の病床数も年によって変動し、2014年には12床となった。人口10万人当たりの病床数は、2014年の大都市平均では0.3床、札幌市では0.6床となっている。

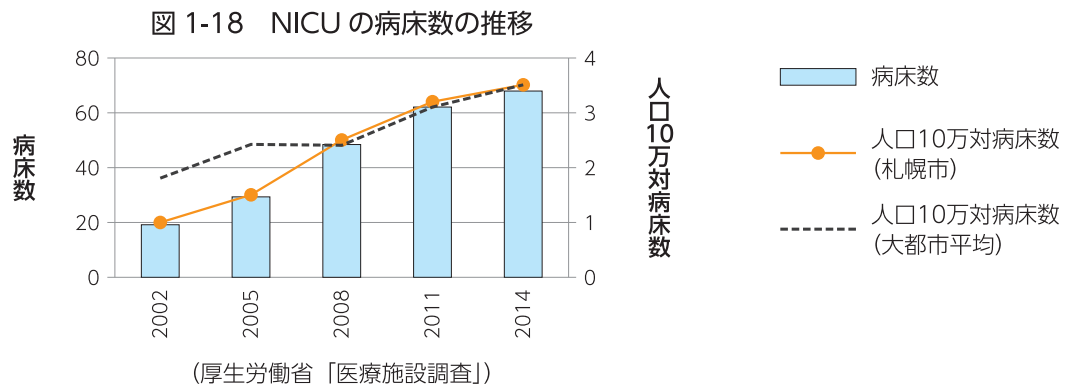


(4) NICU

札幌市内のNICU（新生児特定集中治療室）を持つ病院数は2005年からやや増加し、2014年には8施設となった。人口10万人当たりの病院数は、2014年の大都市平均では0.3施設、札幌市では0.4施設となっている。



また、札幌市内の病院にあるNICUの病床数は大きく増加し、2014年には68床となった。人口10万人当たりの病床数は、2014年の札幌市では大都市平均と同じ3.5床となっている。



4 医療従事者数

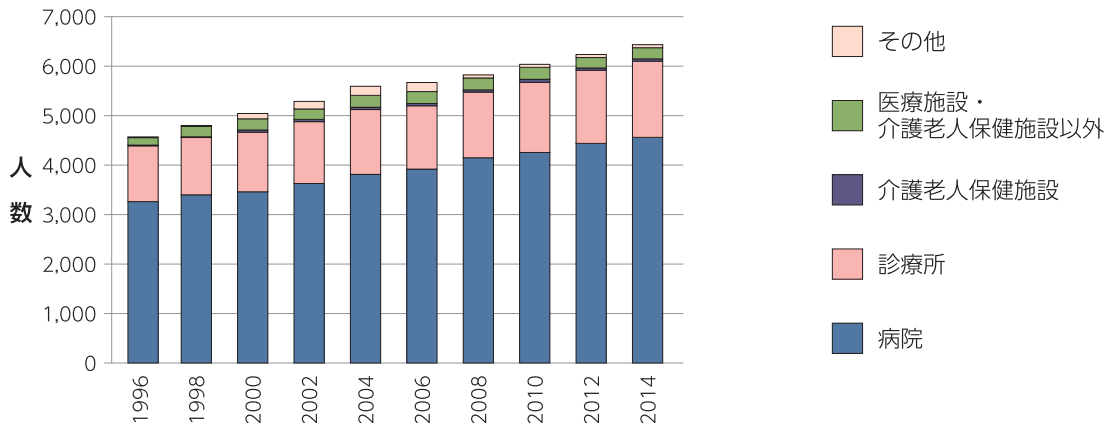
本項では、医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査及び病院報告（厚生労働省）のデータを基に、医療従事者の人数や年齢などを示す。

(1) 医師

ア 札幌市内の医師

札幌市内の医師数は増加し続け、2014年には6,418人となった。勤務する施設⁷別でも各施設で人数が増加しているが、病院が約70%、診療所⁸が約25%という傾向に変化はない。

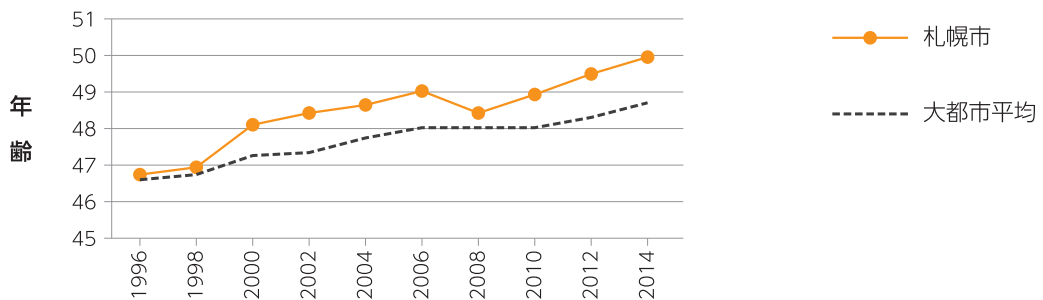
図 1-19 施設別の医師数の推移



(厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

また、医師の平均年齢は徐々に上がっており、1996年から2014年にかけて大都市平均では約2歳（46.6歳→48.7歳）、札幌市では約3歳（46.7歳→49.9歳）上がった。

図 1-20 医師の平均年齢の推移



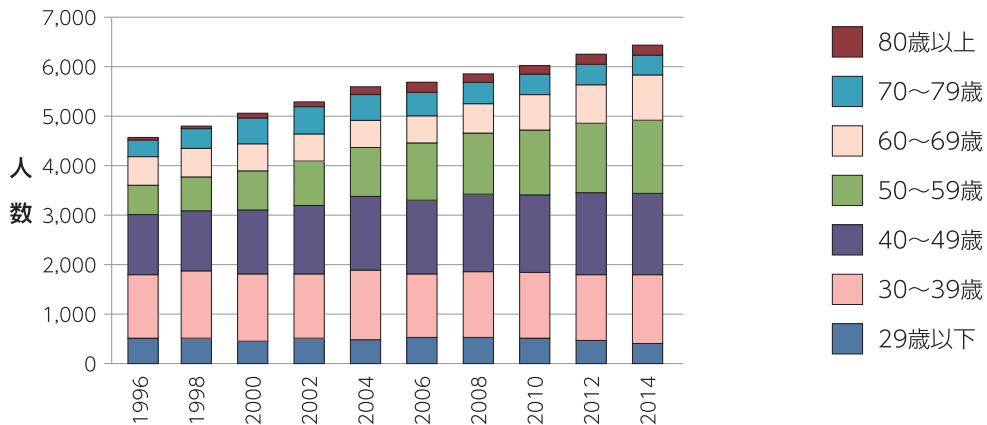
(厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

⁷ 「医療施設・介護老人保健施設以外」には、「医育機関の臨床系以外の勤務者・大学院生」「医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者」「行政機関・産業医・保健衛生業務の従事者」が含まれる。「その他」には、「その他の業務の従事者」「無職の者」「不詳」が含まれる。ただし、2000年までは、調査票に「産業医」の項目はなかった。

⁸ 「医師・歯科医師・薬剤師調査」では、一般診療所と歯科診療所の区別はない。

札幌市の年代別医師数では、1996年から2014年にかけて50代が顕著に増加した（601人→1,501人）一方、20代が減少した（481人→396人）。

図 1-21 札幌市の年代別医師数

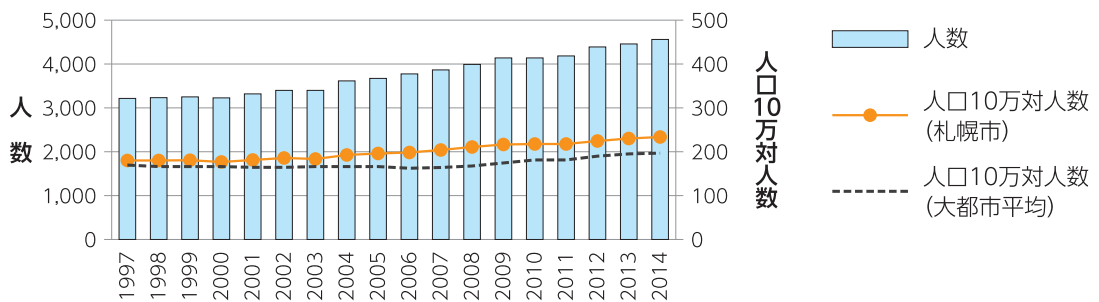


(厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

イ 病院に勤務する医師

札幌市内の病院に勤務する医師数は1997年から2000年までは横ばいであったが、その後は徐々に増加し、2014年には4,566.3人⁹となった。人口10万人当たりの医師数は、2014年の大都市平均では197.8人、札幌市では235.0人となっている。

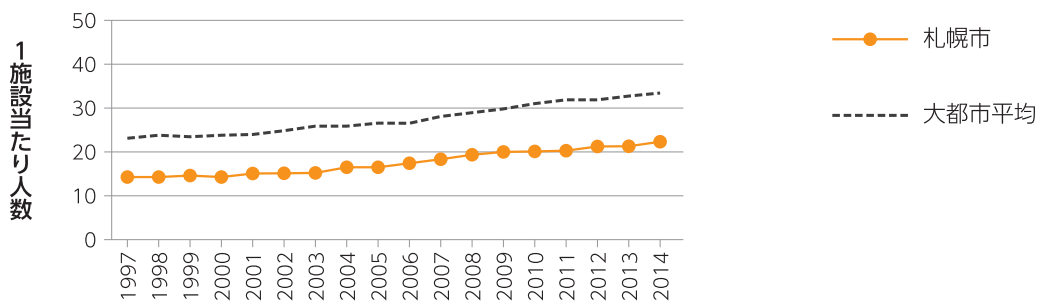
図 1-22 病院に勤務する医師数の推移



(厚生労働省「病院報告」)

病院1施設当たりの医師数は徐々に増加し、2014年の大都市平均では33.4人、札幌市では22.3人となっている。

図 1-23 病院1施設当たりの医師数の推移

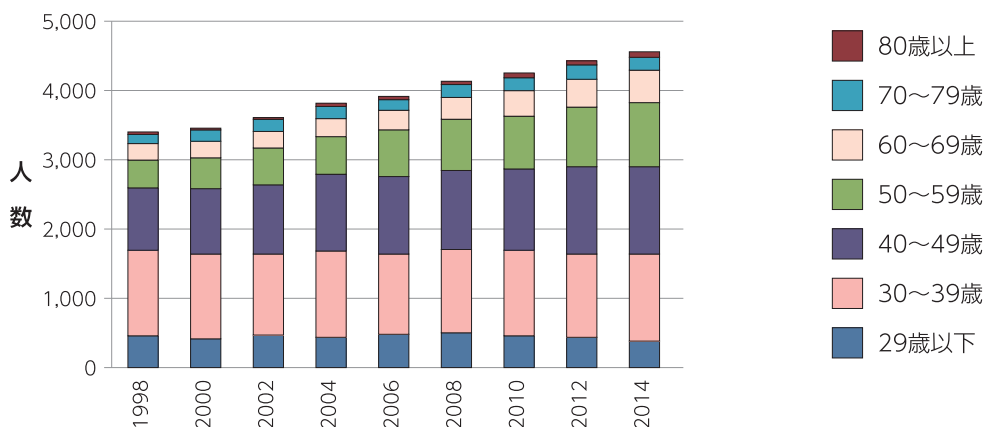


(厚生労働省「病院報告」)

9 常勤換算後の人数

札幌市の病院に勤務する年代別医師数では、1998年から2014年にかけて50代が顕著に増加（403人→935人）し、20代は減少（464人→387人）した。

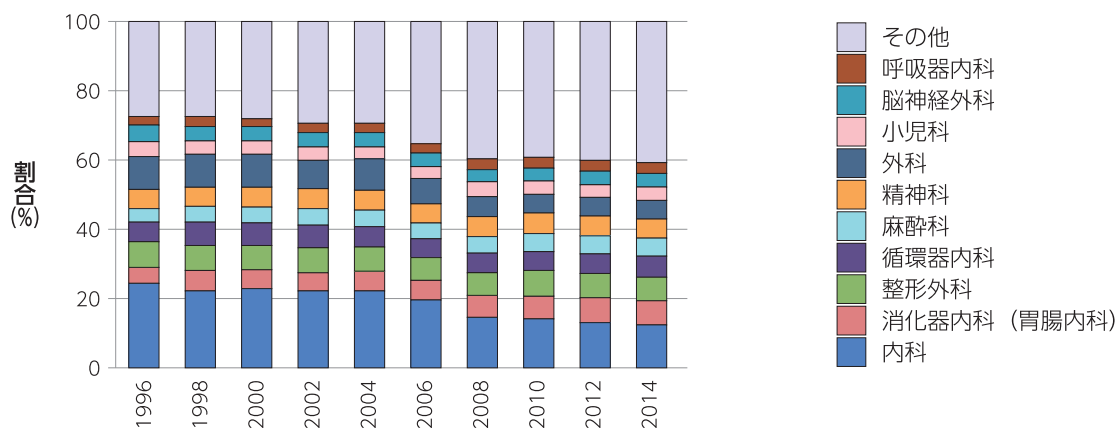
図 1-24 札幌市の病院における年代別医師数



(厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

札幌市の病院に勤務する医師の主たる診療科¹⁰について、2014年に医師数が多い診療科10科を示す。

図 1-25 病院に勤務する医師の主たる診療科割合



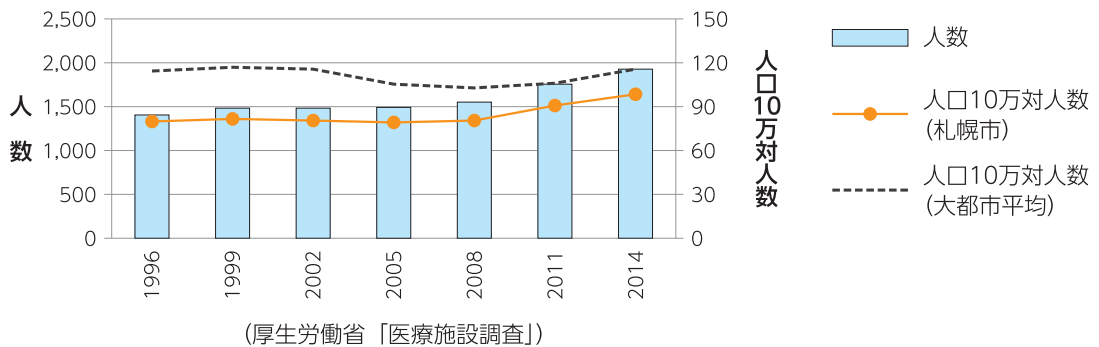
(厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」)

¹⁰ 医療法において広告が認められている診療科名。2008年4月1日から広告可能な診療科名が変更され、図1-25に掲げる診療科名では、呼吸器科→呼吸器内科、循環器科→循環器内科、消化器科（胃腸科）→消化器内科（胃腸内科）となった。

ウ 一般診療所に勤務する医師

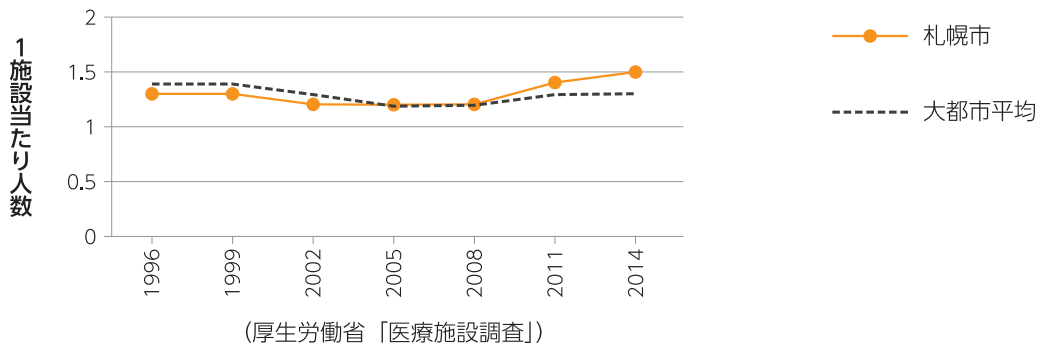
札幌市内の一般診療所に勤務する医師数は1996年から2005年まではほぼ横ばいであったが、その後は徐々に増加し、2014年には1,918.7人¹¹となった。人口10万人当たりの医師数は、2014年の大都市平均では115.0人、札幌市では98.7人となっている。

図 1-26 一般診療所に勤務する医師数の推移



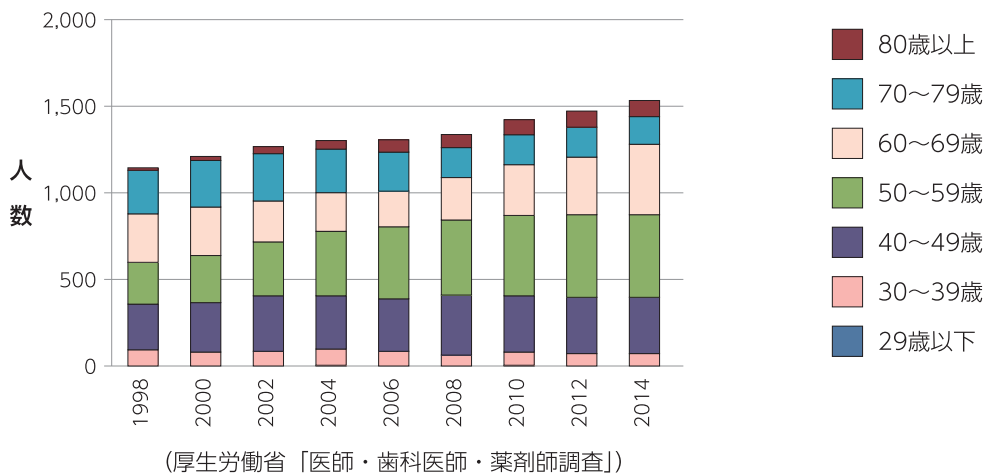
一般診療所1施設当たりの医師数はほぼ横ばいであり、2014年の大都市平均では1.3人、札幌市では1.5人となっている。

図 1-27 一般診療所1施設当たりの医師数の推移



札幌市の診療所¹²に勤務する年代別医師数では、1998年から2014年にかけて50代（239人→487人）と80代以上（17人→93人）が顕著に増加した一方、70代（251人→159人）は減少した。

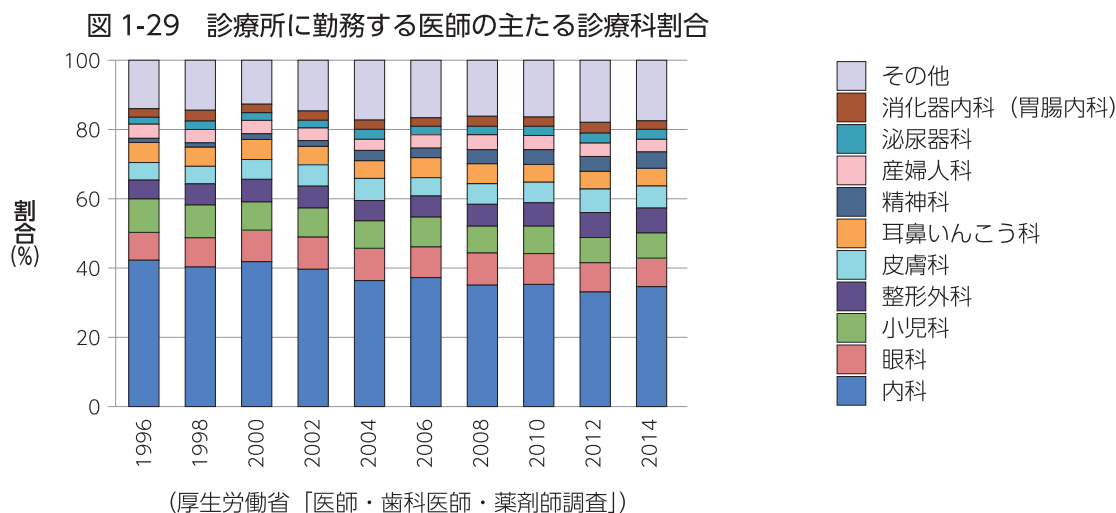
図 1-28 札幌市の診療所における年代別医師数



11 常勤換算後の人数

12 「医師・歯科医師・薬剤師調査」では、一般診療所と歯科診療所の区別はない。

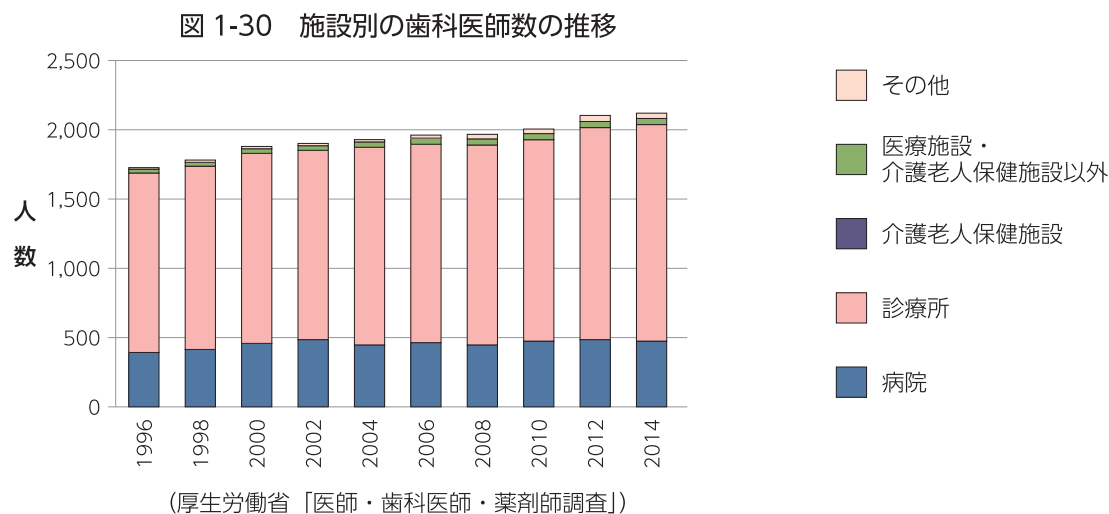
札幌市の診療所¹³に勤務する医師の主たる診療科¹⁴について、2014年に医師数が多い診療科10科を示す。



(2) 歯科医師

ア 札幌市内の歯科医師

札幌市内の歯科医師数は徐々に増加し、2014年には2,118人となった。勤務する施設¹⁵別でも各施設で従事者が増加しているが、その割合は病院が約20%、診療所¹³が約75%という傾向に変化はない。



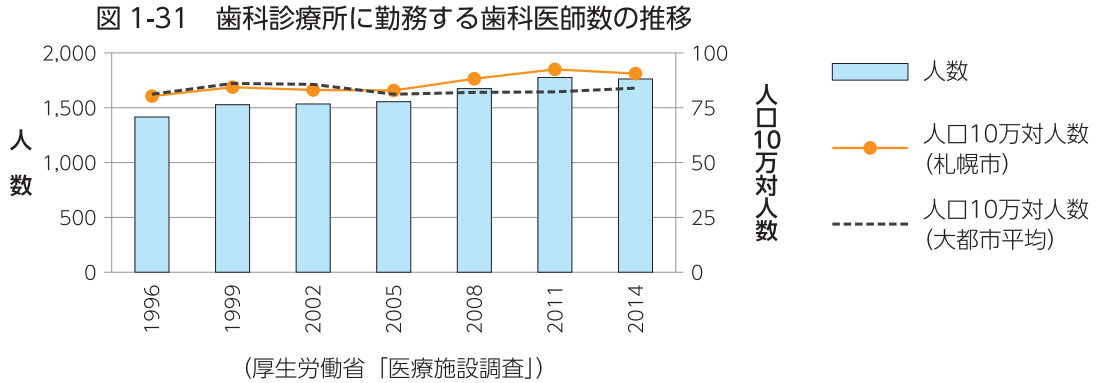
¹³ 「医師・歯科医師・薬剤師調査」では、一般診療所と歯科診療所の区別はない。

¹⁴ 医療法において広告が認められている診療科名。2008年4月1日から広告可能な診療科名が変更され、図1-29に掲げる診療科名では、消化器科（胃腸科）→消化器内科（胃腸内科）となった。

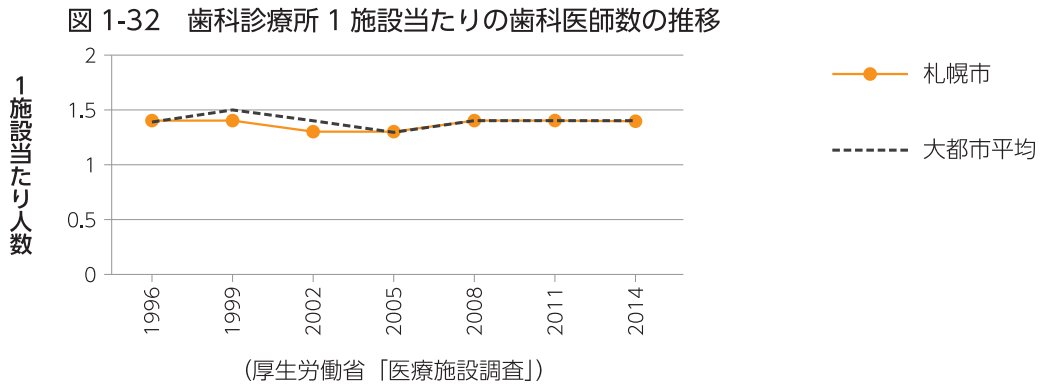
¹⁵ 「医療施設・介護老人保健施設以外」には、「医育機関の臨床系以外の勤務者・大学院生」「医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者」「行政機関・保健衛生業務の従事者」が含まれる。「その他」には、「その他の業務の従事者」「無職の者」「不詳」が含まれる。

イ 歯科診療所に勤務する歯科医師

札幌市内の歯科診療所に勤務する歯科医師の数は徐々に増加し、2014年には1,757.9人¹⁶となった。人口10万人当たりの歯科医師数は、2014年の大都市平均では83.9人、札幌市では90.5人となっている。



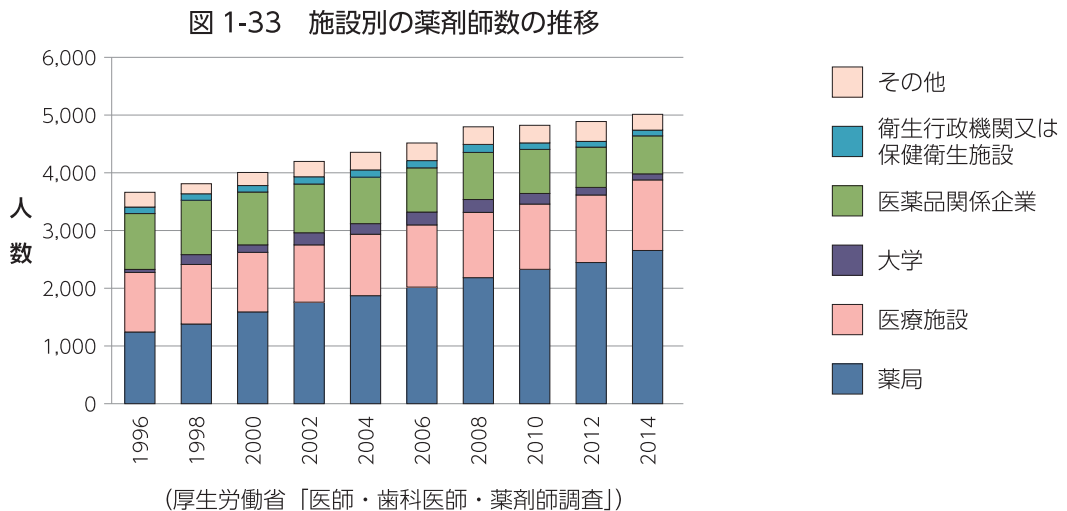
歯科診療所1施設当たりの歯科医師数はほぼ横ばいであり、2014年の札幌市では大都市平均と同じ1.4人となっている。



(3) 薬剤師

ア 札幌市内の薬剤師

札幌市内の薬剤師数は徐々に増加し、2014年には5,015人となった。勤務する施設別では、1996年から2014年にかけて、薬局(1,215人→2,651人)と医療施設(1,056人→1,223人)が増加した一方、医薬品関係企業(983人→661人)は減少した。

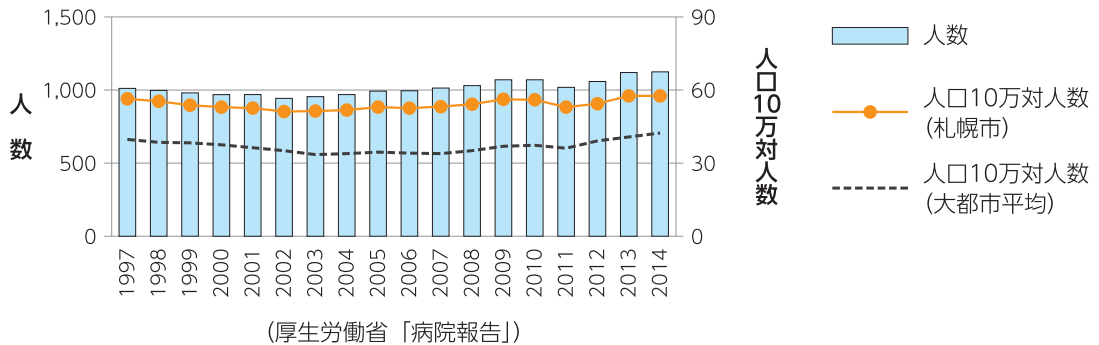


16 常勤換算後の人数

イ 病院に勤務する薬剤師

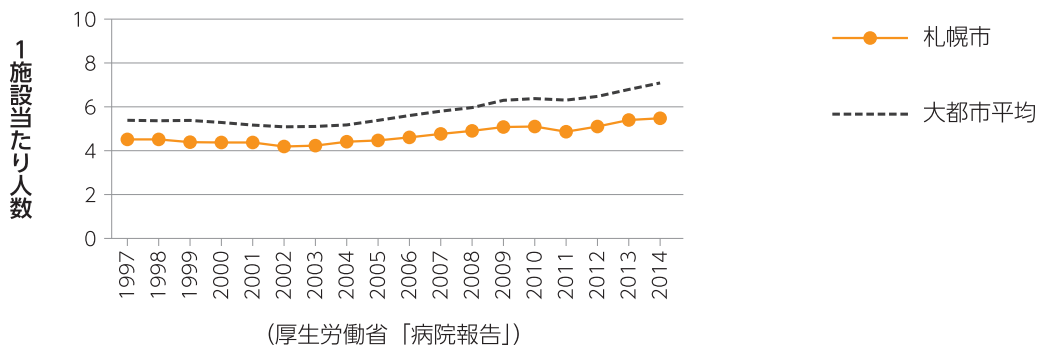
札幌市内の病院に勤務する薬剤師数はほぼ横ばいであり、2014年には1,124.2人¹⁷となった。人口10万人当たりの薬剤師数は、2014年の大都市平均では42.3人、札幌市では57.9人となっている。

図 1-34 病院に勤務する薬剤師数の推移



病院1施設当たりの薬剤師数は緩やかに増加し、2014年の大都市平均では7.1人、札幌市では5.5人となっている。

図 1-35 病院1施設当たりの薬剤師数の推移

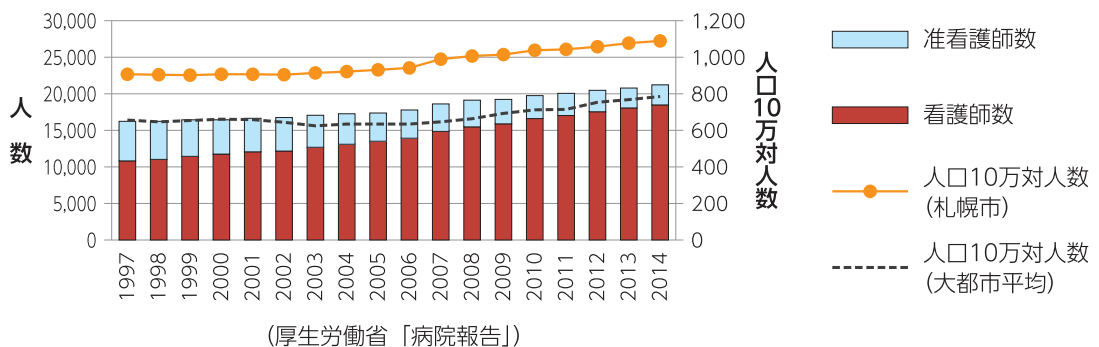


(4) 看護師及び准看護師

ア 病院に勤務する看護師及び准看護師

札幌市内の病院に勤務する准看護師の数は1997年から徐々に減少しているが、看護師の数が増加し続けているため、その合計人数も徐々に増加し、2014年には21,146.8人¹⁷となった。人口10万人当たりの看護師及び准看護師の合計数は、2014年の大都市平均では787.3人、札幌市では1,088.4人となっている。

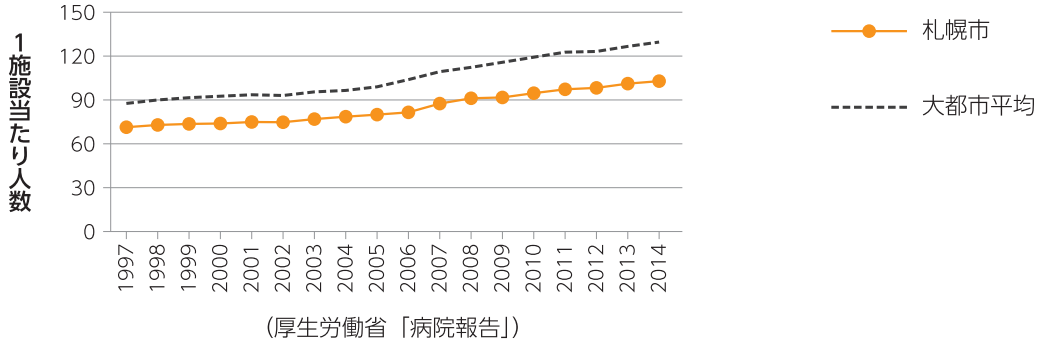
図 1-36 病院に勤務する看護師・准看護師数の推移



¹⁷ 2001年までは実人数、2002年以降は常勤換算後の人数

病院1施設当たりの看護師及び准看護師の合計数も増加し、2014年の大都市平均では129.7人、札幌市では103.2人となっている。

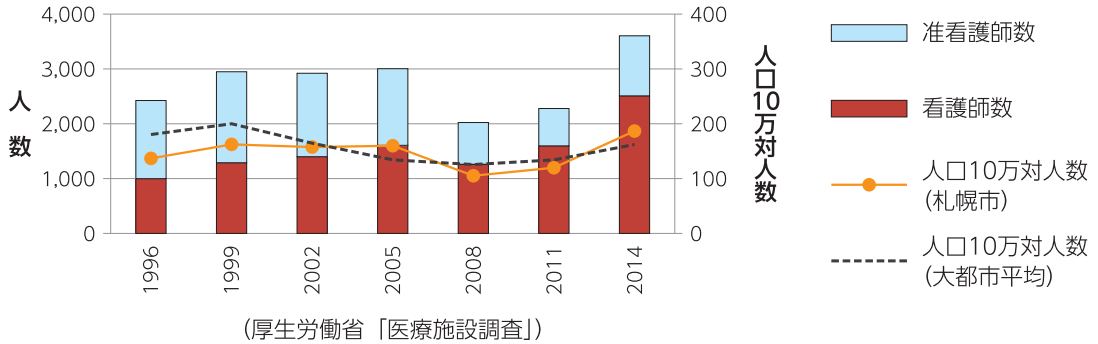
図 1-37 病院 1 施設当たりの看護師・准看護師数の推移



イ 一般診療所に勤務する看護師及び准看護師

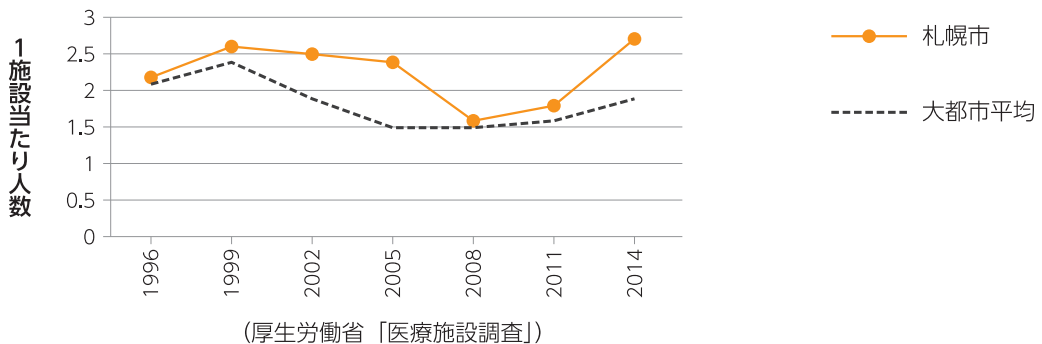
札幌市内の一般診療所に勤務する看護師及び准看護師の数は年によって変動し、2014年には3,592.4人¹⁸となった。人口10万人当たりの看護師及び准看護師の合計数は、2014年の大都市平均では160.3人、札幌市では184.9人となっている。

図 1-38 一般診療所に勤務する看護師・准看護師数の推移



一般診療所1施設当たりの看護師及び准看護師の合計数は、2014年の大都市平均では1.9人、札幌市では2.7人となっている。

図 1-39 一般診療所 1 施設当たりの看護師・准看護師数の推移

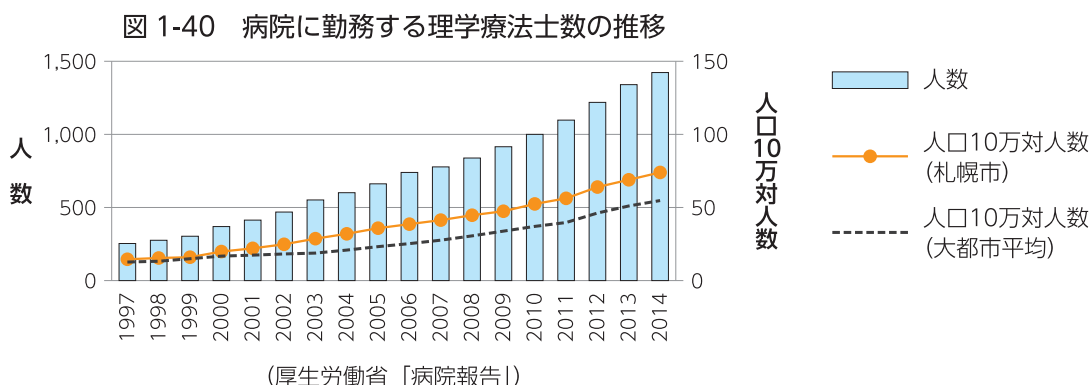


18 1999年までは実人数、2002年以降は常勤換算後の人数

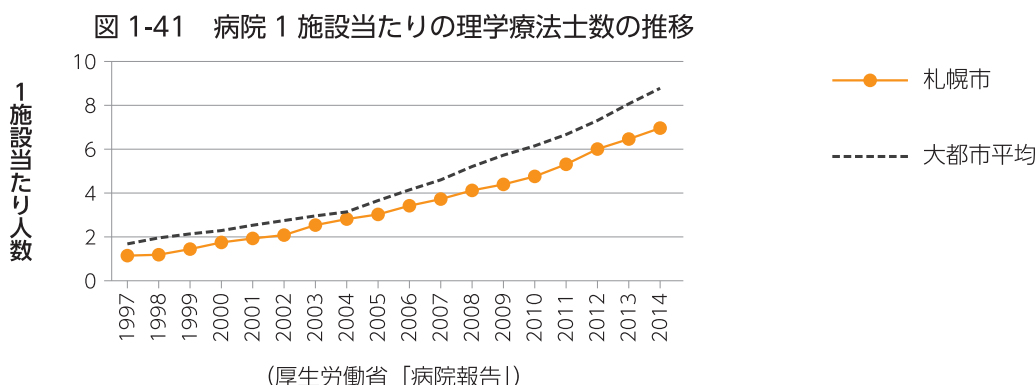
(5) 理学療法士

ア 病院に勤務する理学療法士

札幌市内の病院に勤務する理学療法士数は1997年から増加し続け、2014年には1,431.6人¹⁹となった。人口10万人当たりの理学療法士数は、2014年の大都市平均では55.2人、札幌市では73.7人となっている。



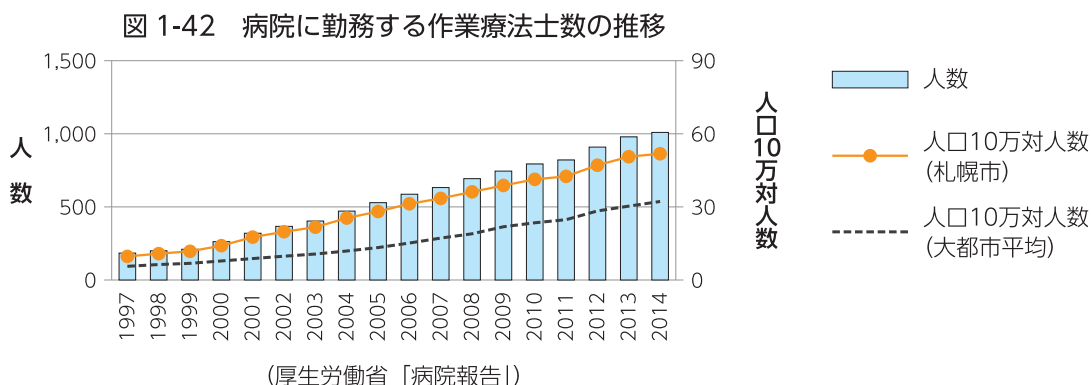
病院1施設当たりの理学療法士数も増加し続けており、2014年の大都市平均では8.8人、札幌市では7.0人となっている。



(6) 作業療法士

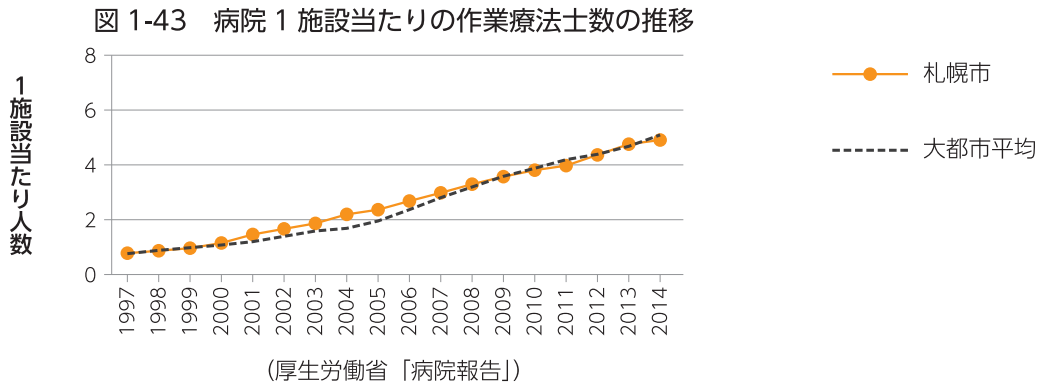
ア 病院に勤務する作業療法士

札幌市内の病院に勤務する作業療法士数は1997年から増加し続け、2014年には1,014.5人¹⁹となった。人口10万人当たりの作業療法士数は、2014年の大都市平均では32.5人、札幌市では52.2人となっている。



¹⁹ 2001年までは実人数、2002年以降は常勤換算後の人数

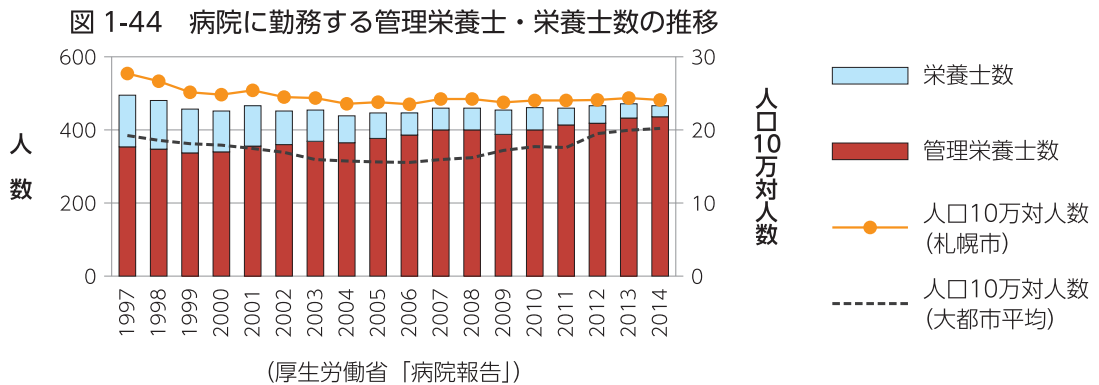
病院1施設当たりの作業療法士数も増加し続けており、2014年の大都市平均では5.1人、札幌市では4.9人となっている。



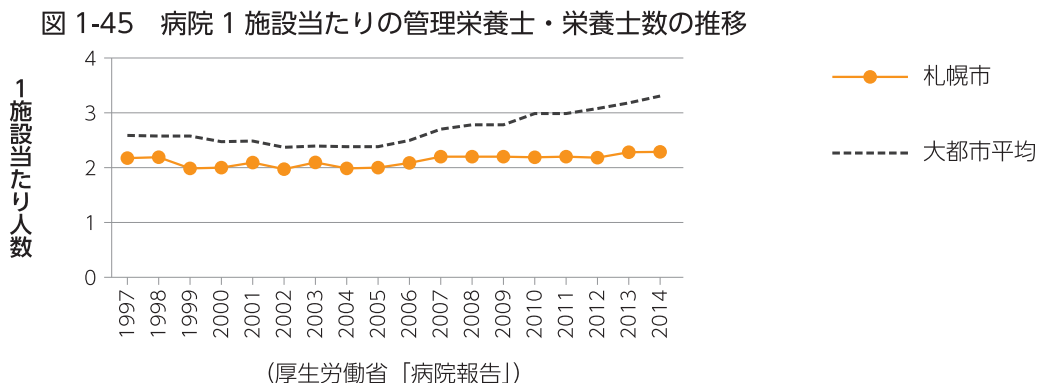
(7) 管理栄養士及び栄養士

ア 病院に勤務する管理栄養士及び栄養士

札幌市内の病院に勤務する管理栄養士の数は徐々に増加しているが、栄養士の数が減少しているため、その合計人数は1997年からほぼ横ばいであり、2014年には467.7人²⁰となった。人口10万人当たりの管理栄養士及び栄養士の合計数は、2014年の大都市平均では20.3人、札幌市では24.1人となっている。



病院1施設当たりの管理栄養士及び栄養士の合計数もほぼ横ばいであり、2014年の大都市平均では3.3人、札幌市では2.3人となっている。

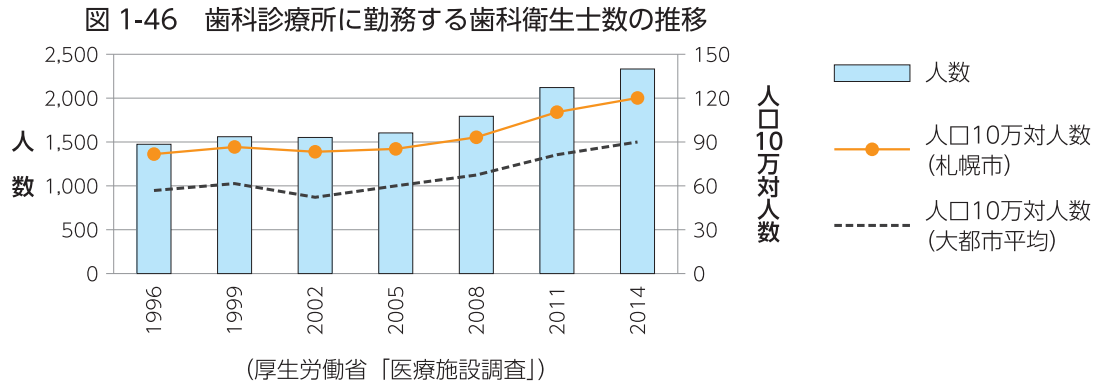


²⁰ 2001年までは実人数、2002年以降は常勤換算後の人数

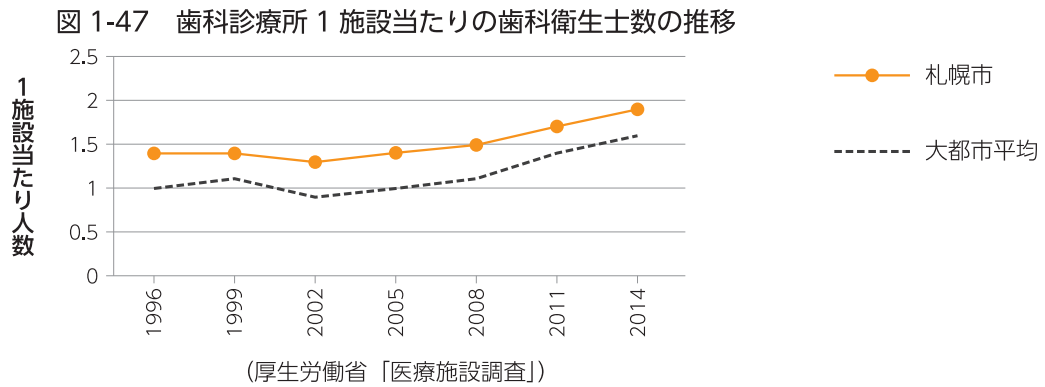
(8) 歯科衛生士

ア 歯科診療所に勤務する歯科衛生士

札幌市内の歯科診療所に勤務する歯科衛生士の数は1996年から2005年までは横ばいだったが、その後は増加し、2014年には2,344.9人²¹となった。人口10万人当たりの歯科衛生士数は、2014年の大都市平均では90.4人、札幌市では120.7人となっている。



歯科診療所1施設当たりの歯科衛生士数も2005年以降は増加し、2014年の大都市平均では1.6人、札幌市では1.9人となっている。



²¹ 1999年までは実人数、2002年以降は常勤換算後の人数